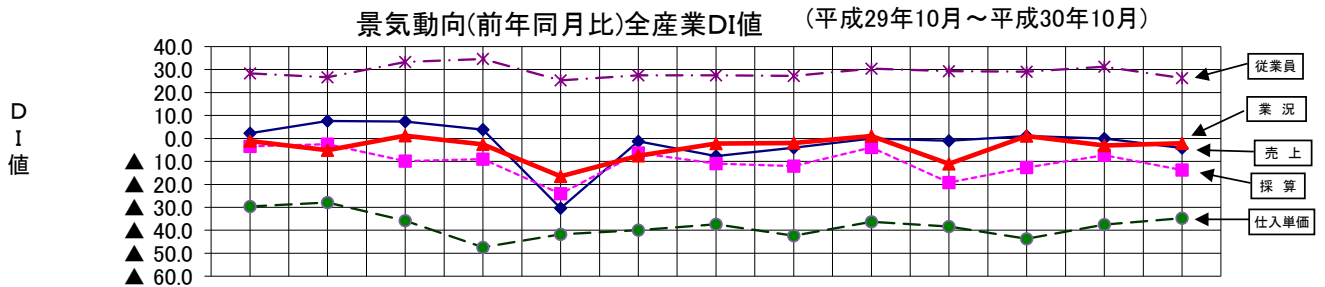


# 早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 10月分

## 【10月の概要】 景況感はやや弱めの動き、先行きは全体的に慎重な見通し

9月に比べると、売上DIはマイナスとなり、採算DIもマイナス幅が増加しているが、業況DIと仕入単価DIはややマイナス幅が減少している。従業員DIのプラス幅は減少した。景況感は全体的に大きな変動はないが、やや弱めの動きを示した。原材料費など仕入コスト増が幅広い業種に影響し、一進一退を続けている。

先行きについては、9月に比べ、売上DIはプラス幅が減少し、業況DIはプラスからマイナスに転じた。採算DIと仕入単価DIもマイナス幅が増加している。従業員DIはプラス幅がやや減少した。仕入コスト増が続く状況で、採算面の悪化も懸念され、先行きは全体的にさらに慎重な見通しとなっている。



	平成29年10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	平成30年10月
売上	2.3	7.6	7.4	3.9	▲ 30.4	▲ 1.3	▲ 7.7	▲ 4.0	0.0	▲ 1.0	1.0	0.0	▲ 4.2
採算	▲ 3.4	▲ 2.5	▲ 9.9	▲ 9.0	▲ 24.1	▲ 6.3	▲ 11.0	▲ 12.1	▲ 3.9	▲ 19.2	▲ 12.6	▲ 7.3	▲ 13.7
業況	▲ 1.1	▲ 5.1	1.2	▲ 2.6	▲ 16.5	▲ 7.5	▲ 2.2	▲ 2.0	1.0	▲ 11.1	1.0	▲ 3.1	▲ 2.1
仕入単価	▲ 29.6	▲ 27.9	▲ 35.8	▲ 47.4	▲ 41.8	▲ 40.0	▲ 37.4	▲ 42.4	▲ 36.3	▲ 38.4	▲ 43.7	▲ 37.5	▲ 34.7
従業員	28.4	26.6	33.3	34.6	25.3	27.5	27.5	27.3	30.4	29.3	29.1	31.3	26.3

### 【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

売上DIは0.0からマイナス4.2ポイントとなり、採算DIも6.4ポイントマイナス幅が増加した。業況DIは1.0ポイントマイナス幅が減少し、仕入単価DIは2.8ポイントマイナス幅が減少した。従業員DIは、5.0ポイントプラス幅が減少した。

全産業平均DI - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	仕入単価	従業員	業況
9月	10.4	▲ 7.3	▲ 33.3	31.3	5.2
10月	2.1	▲ 15.8	▲ 34.7	29.5	▲ 3.2

先行きは、売上DIは8.3ポイントプラス幅が減少し、業況DIはプラスからマイナス3.2ポイントに転じた。採算DIは8.5ポイントマイナス幅が増加し、仕入単価DIは1.4ポイントマイナス幅が増加した。従業員DIは1.8ポイントプラス幅が減少した。

## 【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	総合建設	建設業界の景況感は良好な状況で推移してきたが、工事の種類によって資材の高騰や原油価格上昇の影響を直に受け、建設コストが上がり、収益低下に影響している。
	建設コンサルタント	仕事がある反面、人材不足のため、それに対応する体制が整わないケースがでてきた。人材の確保が喫緊の課題である。
製造業	酒類	売上は繁忙期を迎えて順調に推移している。
	鉄工	需要、価格とも受注環境は安定している。この状況は暫く続くと思われる。
卸売業	石油製品	原油価格の高騰により商品価格が値上がりしている。
	機械部品	下期には得意先の設備投資の案件があり売上には期待ができるが、製品価格の上昇が気かりである。
小売業	生花	需要が多くなる時期になるが、品薄で仕入価格が上昇するため採算は少し悪くなりそう。
サービス業	飲食	前月に引き続き披露宴件数が前年より多く、その他の宴会も前年同様に推移している。11、12月は繁忙期となる。
	不動産	開発計画は増加しているが新潟は建築工事が他県と比較して割高傾向にある。そのため成約が鈍化し、なかなか決まらない。
	運輸	運賃改定の効果により収益は改善しているが、燃油高騰や人件費、備車料の高騰が懸念される。